

3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は下げ止まりつつある。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

	前回(平成28年5月)	今回(平成28年8月)	
鉱工業生産	下げ止まりの兆し	下げ止まりつつある	
住宅建設	大幅に増加	増加	

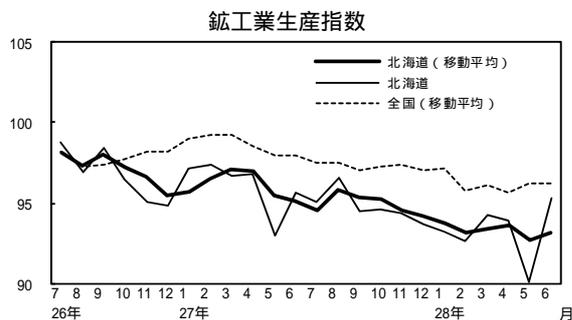
1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産、水産業の水揚量ともに前年を上回っている。

4～6月期には、生乳生産は総量では1,008,671tと前年比2.7%増となり、乳製品向け等が増加した。水産物の水揚量(主要8港)は、ほっけ等が増加したため、前年比36.4%増となった。

(2) 鉱工業生産は、下げ止まりつつある。

4～6月期には、食料品は、冷凍水産物等が減少した。パルプ・紙は、応援生産等に伴い新聞巻取紙等が増加した。電気機械は、熊本地震の影響や海外需要低迷の影響等により半導体部品等が減少した。鉄鋼は、民間工場の活発化等に伴い普通鋼棒鋼等が増加した。輸送機械は、前期の計画減産から生産が持ち直したこと等により、自動車駆動伝導装置等が増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1～3 月期	4～6 月期	4月	5月	6月
食料品	24.2	2.4	3.1	0.2	3.4	1.9
パルプ・紙	11.9	0.0	2.5	4.8	1.2	4.7
電気機械	11.7	16.9	5.9	3.7	6.1	8.9
鉄鋼	7.5	3.5	0.6	10.3	18.9	6.3
輸送機械	7.0	7.2	12.0	8.2	13.6	2.8
鉱工業	100.0	1.0	0.2	0.3	4.0	5.8

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

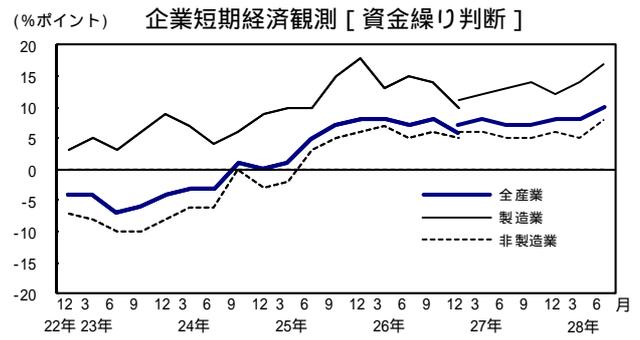
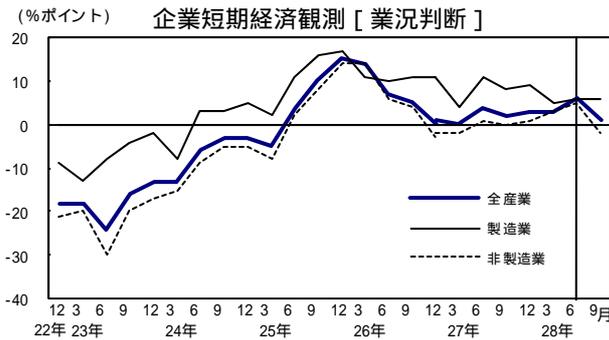
2. 4～6月期、6月は速報値。

(備考) 1. 22年=100、季節調整値、最新月は速報値。

2. 全国及び北海道の太線は後方3か月移動平均。

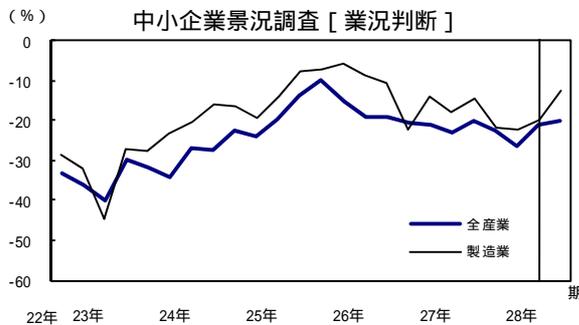
(3) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ拡大している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。28年9月は予測。26年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。26年12月は新・旧基準を併記。

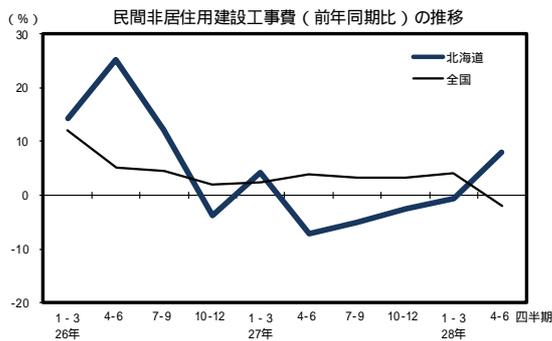


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。28年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「販売量の前年比が伸びている。3か月前からそうした動きが継続している(食料品製造業)」などの回答がみられた。

(4) 設備投資の民間非居住用建設工事は増加している。



企業短期経済観測調査[設備投資(6月調査)]

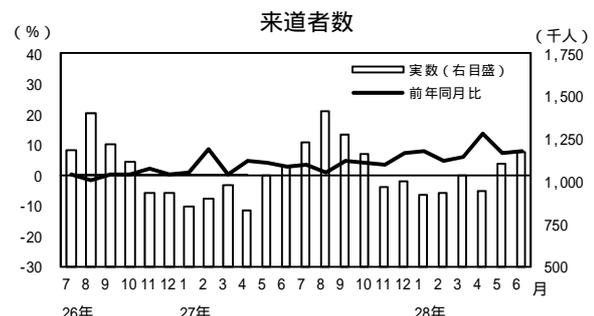
(前年度比、%)

	27年度実績	28年度計画
全産業	7.7(4.0)	15.8
製造業	5.9(7.4)	5.1
非製造業	8.4(2.6)	19.9

(備考) 1.()は前回(3月)調査比修正率。電気・ガスを除く。

2.リース会計対応ベース。

(5) 観光は、増加している。
来道者数は、新幹線効果等により増加した。



(備考)北海道観光振興機構調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費は、持ち直している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比3.6%減、5月は同0.3%増、6月は同0.1%増となった。

百貨店・スーパー販売額

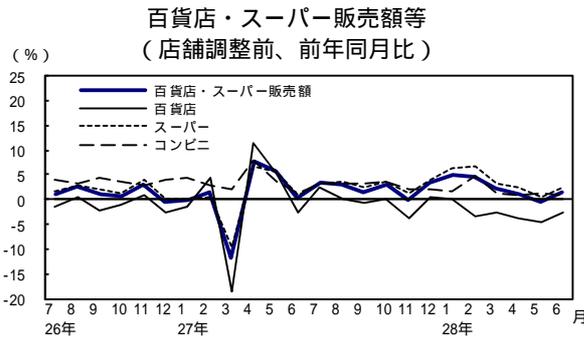
百貨店は、4月は、家庭用電気機械器具等のその他は前年を上回ったものの、衣料品、身の回り品、飲食料品が不調だったことで、前年を下回った。5月は、衣料品、身の回り品、飲食料品、その他のすべての品目で前年を下回った。6月は、家具等のその他は前年を上回ったものの、衣料品、身の回り品、飲食料品が不調だったことで、前年を下回った。

スーパーは、主に飲食料品が好調だったこと等から、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (7月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

北海道地域の家計動向関連DIは、46.3となり前月より1.4ポイント上昇した。

「宿泊需要が外国人観光客の団体旅行から、国内観光客の個人、グループ旅行へとシフトしつつあるものの、宿泊客数は前年比でマイナス傾向となっている。その反面、客単価は若干プラス傾向となっている (観光型ホテル)」など、「変わらない」とする回答が増加した。

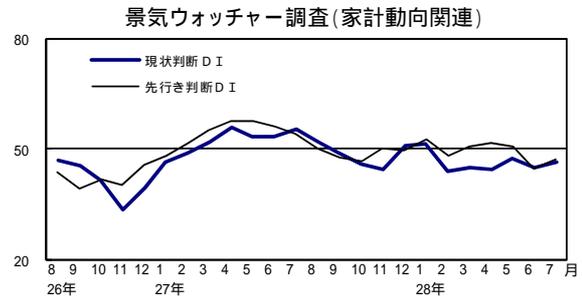
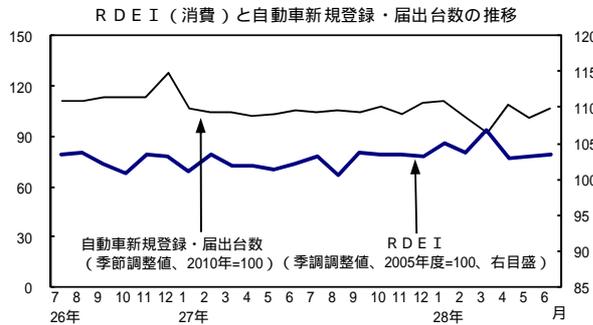


	28年4-6月	28年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	1.8	3.6	0.3	0.1
百貨店・スーパー(*2)	0.6	1.2	0.6	1.3
百貨店(*2)	3.6	3.6	4.6	2.5
スーパー(*2)	1.7	2.5	0.5	2.3
コンビニ(*2)	1.1	0.8	1.4	1.0
乗用車(*3)	0.7	3.7	1.2	0.3
(季節調整値)(*3)	3.8	18.8	6.9	4.9

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

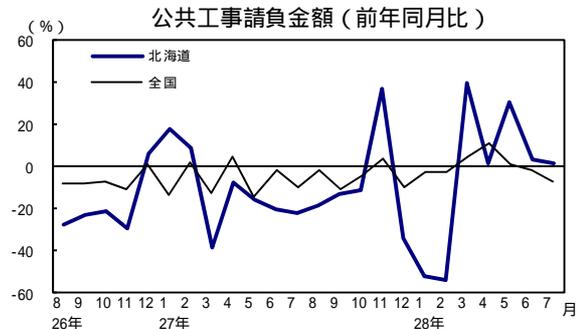
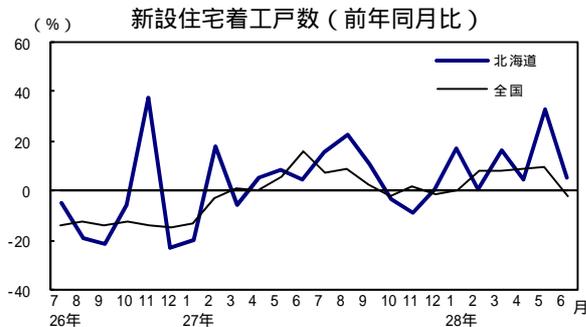
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は増加している。

持家、貸家が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は28年度累計で見ると前年度を上回っている。

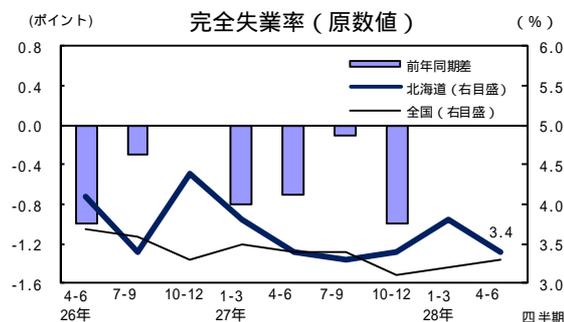
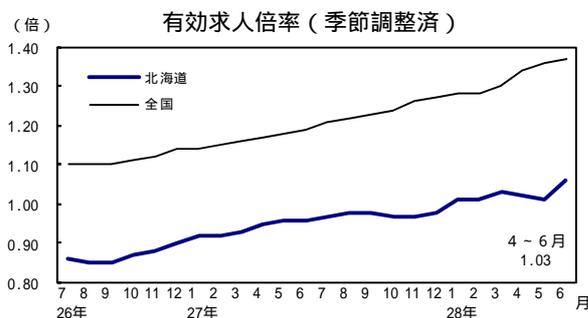


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は、着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査（7月調査結果）[雇用関連（現状）]

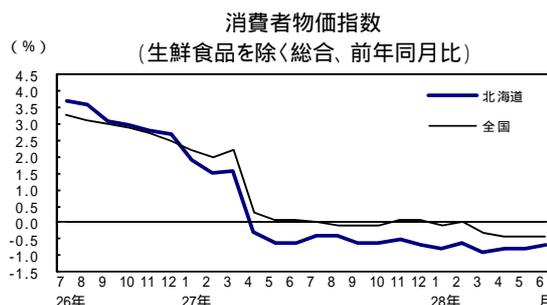
「今年に入ってから求人広告受理件数が前年とほぼ同じような水準で推移しており、7月も大きな変動はみられなかった（求人情報誌製作会社）」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は増加しているものの、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は、前年比の下落幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	27年7-9月	10-12月	28年1-3月	4-6月	28年7月
倒産件数	77	59	68	63	30
(前年比)	5.5	0.0	17.1	3.3	3.4
負債総額	113	156	377	109	16
(前年比)	25.1	91.9	54.0	20.3	68.4



景気ウォッチャー調査（7月調査結果）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・観光の最盛期を迎えて、旅客、車両ともに輸送量が1年のピークとなってきている。特に個人観光客の増加が目立っている（その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕）。

<先行き>

・8月に新型車が発売される。その車種は目玉商材で確実に売れることが見込めるため、9～11月にかけて販売台数のかなりの増加につながり、景気は上向きになる（乗用車販売店）。

